

一人ひとりの子どもの可能性を最大限伸ばし、地域とつながるインクルーシブな社会をリードする特別支援学校への変革

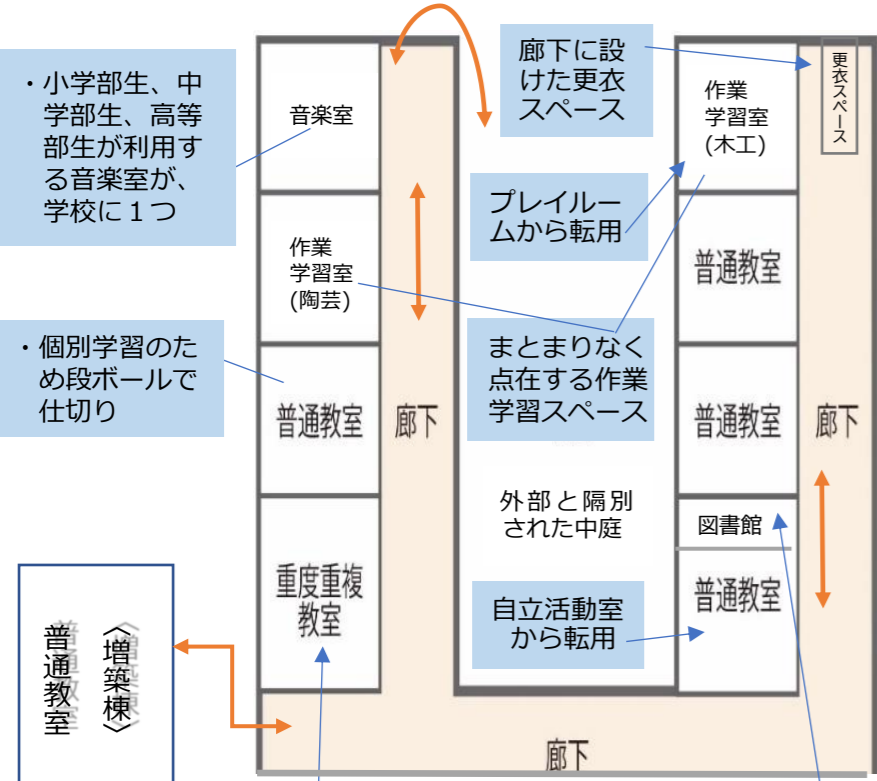
これまでの特別支援学校

- ▲児童生徒の増加による教室不足
- ▲画一的な教室と移動だけの廊下
- ▲段差や勾配、幅狭な出入口、廊下などのバリアが存在



課題

- ・音楽、美術等の教科学習を普通教室で実施
- ・授業内容による柔軟なグループ学習ができない
- ・個別学習スペースやクールダウンスペースの確保は困難
- ・段差につまずくなど、校舎内で安全・安心な生活が送れない



- 【重度・重複学級用教室】
- ・普通教室から転用
 - ・床に畳を敷いた不衛生な空間
 - ・導尿、おむつ替え時は、段ボールで仕切り
 - ・冷たい床面

施設整備の考え方

【可能性が最大限伸びる学びを支える教育環境】

- ① 必要な教室数の確保**
 - 児童生徒の増加に対応できる普通教室・特別教室
 - ・ 国の学級編成基準に基づく一教室の上限人数 (小中6人、高8人)
 - 音楽、美術、家庭科、体育等の教科の学習ができる専用の教室
- ② 多様な教育的ニーズへの対応**
 - 障がいの特性や興味関心に応じた個別・集団学習の空間
 - ・ 可動壁やパーテーションを活用したフレキシブルな教室
 - 身体機能やコミュニケーション能力の発達を支える学習空間
 - ・ 廊下と一体化し、ダイナミックに活動できる多目的な空間
- ③ 専門的指導・支援の確保**
 - 障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服する学習が可能な空間 (バランス感覚の伸長などの自立活動のできる教室)
 - 最新のICT化に対応する構造 (大容量Wi-Fi環境整備)
 - 教員が日常的に児童生徒の情報や支援方法を共有できる空間 (教員全員が集える大職員室)
- ④ 障がいの重度・重複化への対応**
 - 重度・重複障がいの児童生徒が、安全・安心に学習できる空間 (衛生管理、体調管理のできる教室)

【共生社会の実現に向けた協働の学びを支える教育環境】

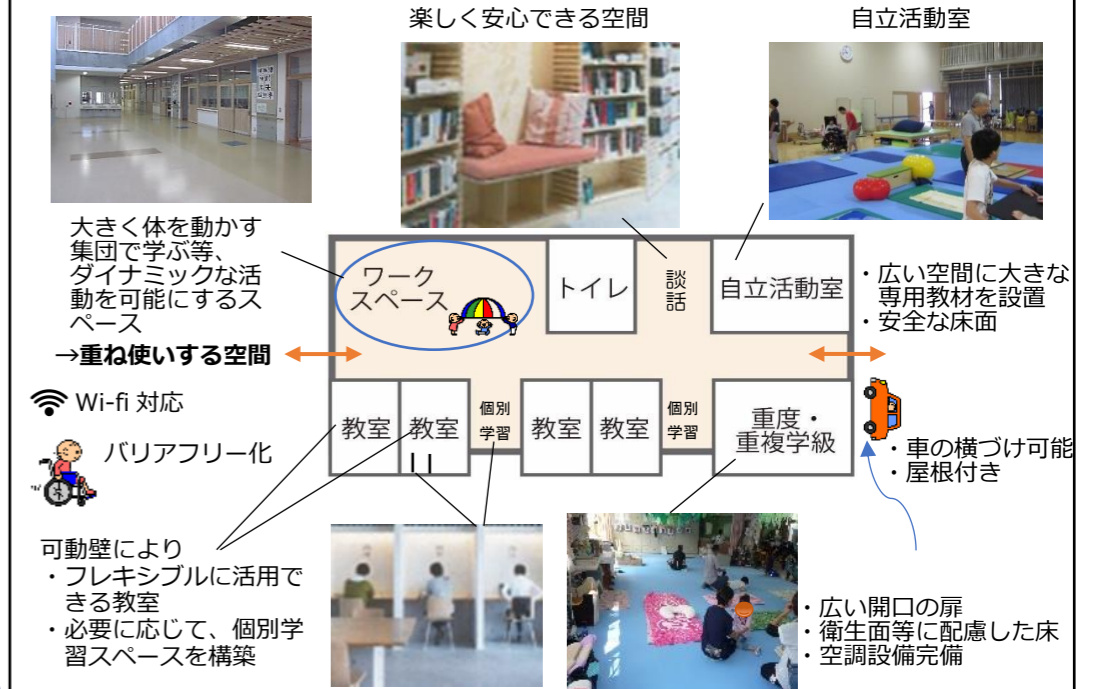
- ① 地域の方々や企業と日常的に交流・活動できる、つながる空間の創造**
 - ・ 地域連携室や地域交流ゾーンの整備
- ② 生徒が意欲的に働くスキルを学ぶことのできる作業学習スペース**
 - ・ 興味関心や適性、社会の変化に対応できるフレキシブルな作業学習室

【児童生徒にとって安全・安心で快適な教育環境】

- ① バリアフリー化**
 - 段差のない廊下・教室や緩勾配のスロープなど、子どもたちの多様な活動を優しく包み込む施設
- ② ほっとできる空間の確保**
 - 談話スペースや図書スペース、クールダウンスペース等の楽しく安心して過ごせる空間
- ③ 教材を保管できる倉庫の整備**
 - 立位台や自作教材等いつでも使いやすい状態で保管できる十分な広さ

イメージ

【一人ひとりの可能性を最大限伸ばす学校の実現】



【インクルーシブな社会をリードする学校の実現】

